

# 1985年



中華医学会代表団の吳階平団長を歓迎する井上靖会長(右)、圓城寺次郎顧問(左)

——1985年3月20日 東京



中国社会科学院代表団歓迎レセプションで。左から梅益団長、加藤一郎、都留重人、三上次男各常任理事

——1985年4月10日 東京



賀緑汀中国音楽家協会名誉主席(中央)、姜瑞芝夫人(左二)を自宅に訪ねた日本音楽家代表団の團伊玖磨団長(左三)、岩淵龍太郎(右二)、廣瀬量平(右三)、中澤桂(右一)、山田浩子(左一)の諸氏

——1985年6月30日 上海

の動きに拍車がかかる。  
〈八五年の主な交流〉  
◎1月 「中国陶俑の美」展、京都国立博物館で開催。千田是也、東山魁夷、團伊玖磨の三氏が日中文化交流協会の代表理事に就任。

国際交流基金の「国際交流奨励賞」を受賞、当協会が文化交流を通じて両国の相互理解の増進に尽力をしていることに對するものである。七三年の朝日賞に続く受賞である。交流も歌舞伎・京劇立回り比較公演、上海人民芸術劇院「家」訪日公演、日中新エネルギーシンポジウム等々、期待に応えるものだった。中国では「人民公社」の解体が終わり、改革・開放の動きに拍車がかかる。

◎2月 中国野球コーチ研修団(顏平安団長) 来日。  
◎3月 「中国陶俑の美」展、東京国立博物館で開催。現代歌人協会訪中団(近藤芳美団長) 訪中。歌舞伎・京劇立回り比較公演(東京・国立劇場)に京劇公演団(陳凌団長、史燕生、宋鋒の諸氏ら中国京劇院三団の十五名)来日、主催・国立劇場、協力・当協会。中華医学会代表団(吳階平団長) 来日、金原出版と当協会の招請、金原出版創業百十一年記念祝賀会に出席。

◎4月 中国作家代表団(張光年団長、從維熙、鄧剛、陳祖芬、陳喜儒の諸氏) 来日。中国社会科学院代表団(梅益団長、劉大年、林甘泉、楊向奎、孫祚民、林華雄、解莉莉の諸氏) 来日。日本美術家訪中団(高山辰雄団長、松尾敏男、加倉井和男、岩澤重夫、村木明、大矢紀、小暮貴代の諸氏) 訪中。作家の尾崎秀樹常任理事が取材のため訪中。舞踊家の黛節子氏一行訪中。当協会など日中友好六団体が主催し、東京で彭真全人代委員長歓迎レセプション。

◎5月 日本「環境科学」代表団(水科篤郎団長・京大名譽教授、坂本充名古屋大助教授、戸田昭三東大教授、西岡秀三国立公害研究官、小倉紀雄東京農工大教授、福井洵(川崎重工業)、島津清孝(大阪ガス)、中野暁の諸氏) 訪中。出光美術館代表団(三上次男、出光昭介、末松良介、阿久井長則、木村美智子、賀利の諸氏) 訪中。第二回日

中テレビ祭、東京で開催、中国代表団(阮若琳団長) 来日。中国印刷技術協会の王仿子顧問、丁一副秘書長が来日。  
◎6月 日本音楽家代表団(團伊玖磨団長、岩淵龍太郎、廣瀬量平、中澤桂、山田浩子、佐藤祥子の諸氏) 訪中。中国科学院環境科学代表団(劉靜宜団長、環境化学研究所所長、楊国治、盧貴欽、張松林の諸氏) 来日。中国科学技術出版代表団(蔡劍秋団長) 来日。「富岡鉄斎展」協議団(白土吾夫、平方彰朝日新聞社大阪本社企画部次長、森藤光宣鉄斎美術館副館長、清荒神清澄寺執行および木村美智子、横川健らの諸氏) 訪中。

◎7月 北京で映画「敦煌」製作協定調印式。東京で中日友好協会代表団(王震名誉会長) 歓迎会。日本出版代表団(緑川亨団長・岩波書店社長、山崎賢二桐原書店社長、上原巖主婦の友社取締役、小西湧之助小学館取締役、大村彦次郎講談社取締役、佐藤克身福音館書店社長、佐藤祥子の諸氏) 訪中。

◎8月 東京で谷牧國務委員歓迎会。宋之光中国大使歓迎会。日本少年野球選手団(井上原彦団長) 訪中。北九州市ジュニアオーケストラ訪中団(栗林範治団長) 訪中。松山市中学生訪中団(細川哲彦団長) 訪中。  
◎9月 上海人民芸術劇院訪日公演団(黄佐臨総演出・名誉院長ら一行四十七名) 来日、上演委員会(当協会、民音、松竹、日本新劇俳優協会)で構成の招請、話劇「家」(原作・巴金、脚色・曹禺)を東京、横浜、名古屋、大阪、京

馬)を東京、横浜、名古屋、大阪、京



出光美術館代表団が訪中 中国社会科学院考古研究所を訪れ、夏鼐名誉所長(左三)、王仲殊所長(左二)、安志敏副所長(左一)の歓迎を受ける三上次男顧問(右三)、出光昭理理事長(右二)

—1985年5月13日 北京



日中テレビ祭東京で テレビのドキュメンタリー番組を中心に制作者の相互理解を深める目的で開かれているもの。中国テレビ代表団を歓迎する井上靖会長

—1985年5月23日 東京・歓迎パーティー

上海人民芸術劇院(黄佐臨名誉院長)による話劇「家」訪日公演を、東京など五都市で行なった。83年の「茶館」に続くもので、各地で好評を博した

—一九八五年九月



都で上演。日本文化界団基代表団(中野孝次団長、江崎誠致、濱野彰親、井上光晴、真継伸彦、白川正芳、小林千寿、斎藤宜郎、中野暁、馬場隆の諸氏)訪中。日本美術家代表団(河北倫明団長、麻田鷹司、藤田吉香、小山硬、小暮貴代の諸氏)訪中。中日石炭化学術シンポジウム参加代表団(玉井康勝団長、大内公耳、富永博夫らの諸氏)訪中。

第二次桐朋学園演劇専攻訪中団(生江義男団長)訪中。水上勉常任理事が岩波剛氏を伴い訪中。東京で章曙大使歓迎会。

◎10月 日本経済学者代表団(都留重人団長、常任理事・一橋大名誉教授、都留正子夫人、宮崎義一東経大教授、中村隆英東大教授、華山謙東工大教授、中村達也千葉大教授、原信之の諸氏)訪中。日本「第四回中国書道研究会」訪中団(今井凌雪団長、高橋静豪秘書長、中村伸夫、小浜大明、中村雲龍、依田祥堂、中野暁らの諸氏)訪中。日本産業界代表団(圓城寺次郎団長、日本経済新聞社顧問、橋口収廣島銀行頭取、樺原四郎三菱モンスター化成社長、荒木正雄日商岩井副社長、由布震一三菱電気副社長、岡村昇本田技研工業会長、水口弘一野村證券副社長、木村美智子の諸氏)訪中。当協会が国際交流基金の国際交流奨励賞を受賞。日本「中国曲芸鑑賞」訪中団(岡本文弥団長、戸板康二顧問)訪中。

◎11月 「日中新エネルギーシンポジウム」参加日本代表団(水科篤郎常任理事を団長に、生物・太陽・風力・潮力・地熱エネルギーの研究者一行二十名)訪中。現代歌人協会訪中団(近藤芳美団長、近藤とし子、中野菊夫副団長、市来勉、冷水茂太、吉田弥寿夫、新井貞子、来嶋靖生、道浦母都子、佐藤祥子の諸氏)訪中。日本民法・経済法学者訪中団(加藤一郎団長、野村好弘、浅野直人、木宮高彦、加藤美穂子、潮海一雄、若林敬子、植木哲、藤村和

夫、小賀野晶らの諸氏)訪中。日中文化交流協会代表団(杉村春子団長、護雅夫副団長、川崎鈴彦、池内淳子、佐藤純子、池辺晋一郎、横川健の諸氏)訪中。

◎12月 中国科学院新エネルギー代表団(侯琦団長・中国科学院エネルギー研究委員会処長)来日。

中国では改革・開放の歩みが速まり、市場経済の導入も視野に入ってきた。この時期に日本経済学者代表団が訪中した意義は大きい。団長は当協会常任理事、都留重人氏。都留氏といえば、常任理事会で、時局と学術を織りませた、講話とも言うべき発言をされることがあり、この碩学泰斗の講話を楽しみに出席する常任理事もいた。氏はある時、「働く」ということについて話をされた。「大きく分けるとレーバーとワークがある。どちらに考えるかが生活の質の大切な柱である。幸せに働いているか否か、働いて生き甲斐を感じているか否かが、ワークとレーバーの違いである。協会の事務局はワークと違って仕事をしているから幸せだ。」

辞典を繙くと、レーバーは「苦しい仕事」、「辛い労働」となっている。ワークは「ある目的のために意識的に何かをすること」となっていて、「徐々に努力して」が含意されている。本誌編集者中、氏の計報に接して愕然としたことが、その含蓄に富んだ講話を思い出すこと頻りである。(九十九)